

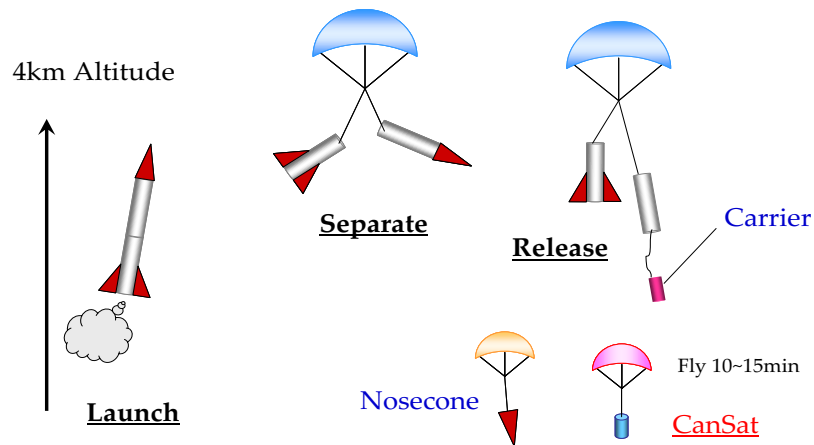
CanSatとは

- Cansat = 空き缶サイズの模擬人工衛星
 - 実際の衛星と同様の技術を使用して制作

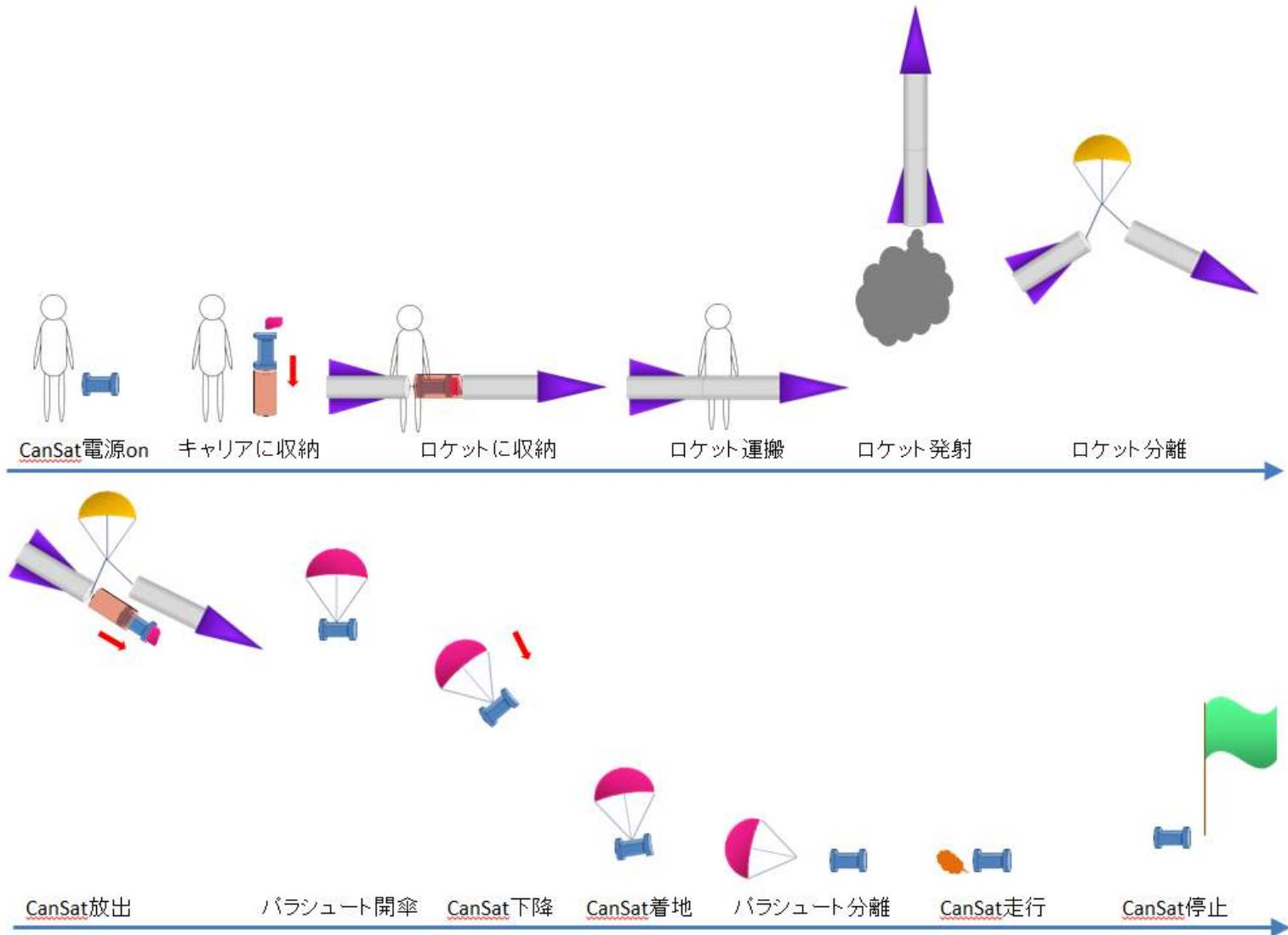
- Cansat競技
 - ロケット（あるいは気球）にCansatを搭載し，上空から降下
 - カムバックコンペティション（スタンダードな種目）
あらかじめ地上に定められたゴールを目指す

 - ミッションコンペティション
「ロケットに搭載し，上空から降下させる」という特徴を生かした独自のミッションを立てて検証する

- 毎年9月にネバダ州ブラックロック砂漠にて開催
- 上空4000mからCansatを降下
- 日本を中心に各国から計20チームが参加（2016年）



競技の流れ（カムバック）



■ 方式

● フライバック

- ・ 降下中に制御を行い，目標地点を目指す

● ランバック（スタンダードな方式）

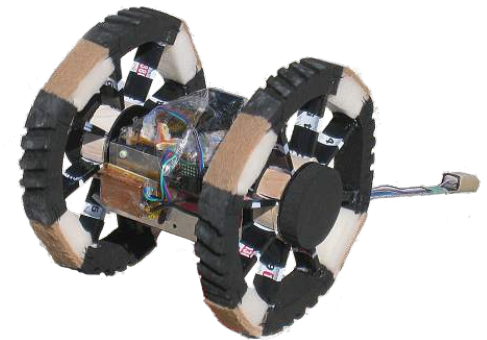
- ・ パラシュートで降下，着地後切り離し，走行して目標地点を目指す



パラfoil型



翼型



ローバ型

必要な技術

過酷環境における自立システム

全体

- 電源の確保
- 地上局との通信
- データ保存

★cansat技術の特徴
低コスト
耐故障性
冗長系の確保

打ち上げ

- ロケットに搭載可能な大きさ，重量



直径14.6cm
高さ24cm
の円筒に収納可能

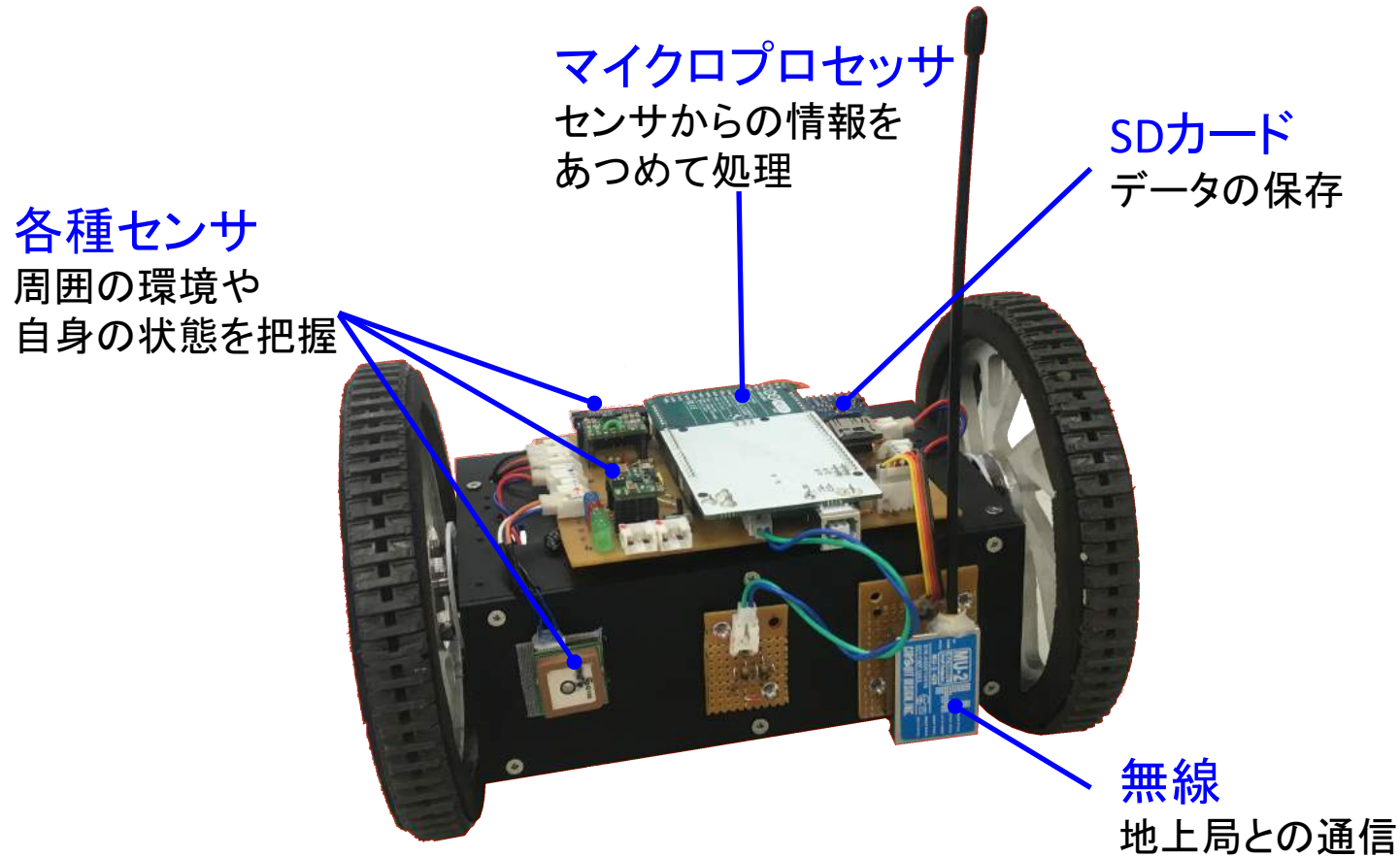
降下・着地

- 耐衝撃性
- 高度の認識

走行・ゴール

- 走破性
- 自己位置の取得
- ゴール検知

Cansatにつまっているスペーステクノロジー



システム構成

